

発達障害のピアニスト

野田さん(宮崎市)の経験本に



野田あすかさん

がこれまでのあすかさんとの生活を振り返り、思いをつづっている。

あすかさんは障害が原因で子どもの頃から他人とのコミュニケーションがうまく取れ

広汎性発達障害、解離性障害があるピアニスト、野田あすかさん(33)は、宮崎市は、両親との共著でCD付きの本「発達障害のピアニストからの手紙」を、出版社のアスコム(東京、高橋克佳代表取締役社長)から刊行した。あすかさんの文章を中心に、両親



野田あすかさんと両親の共著「発達障害のピアニストからの手紙」

ず、いじめ、転校、退学などを経験。22歳のときには広汎性発達障害と判明する。一方で4歳から音楽教室に通い、ピアノに打ち込んだ。2006年、宮日音楽コンクールで最高賞の全日空ヨーロッパ賞、昨年は「第11回ゴールドコンサート」(NPO法人日

本は9章で構成。「なぜ、まわりの人とうまくいかないのか?」「ピアノが教えてくれた『こころのおと』」「なぜ、パニックになるのか?」「ありのままの自分でいい」

本バリアフリー協会主催)で観客賞を受賞し活躍の場を広げている。

などの章で、障害やピアノ、家族、学校のことなど、これまで経験した喜びや悲しみを素直に表現している。

付属のCDは全11曲であすかさんが演奏。作詞、作曲した「手紙」小さいころの私へ」と「生きるためのメロディ」は自らが歌っている。

「書いているときは障害がある人やその家族に読んでほしい」と思っていたけど、読むと元気が出るのでみんな読んでほしい」と話している。

母の恭子さん(63)は「子育てで失敗したことや成功したことなど、正直な気持ちが詰まっている」、あすかさんは「書いているときは障害がある人やその家族に読んでほしい」と思っていたけど、読むと元気が出るのでみんな読んでほしい」と話している。

本は18336円。

文化

文化部 ☎0985(26)9307

bunka@the-miyanichi.co.jp